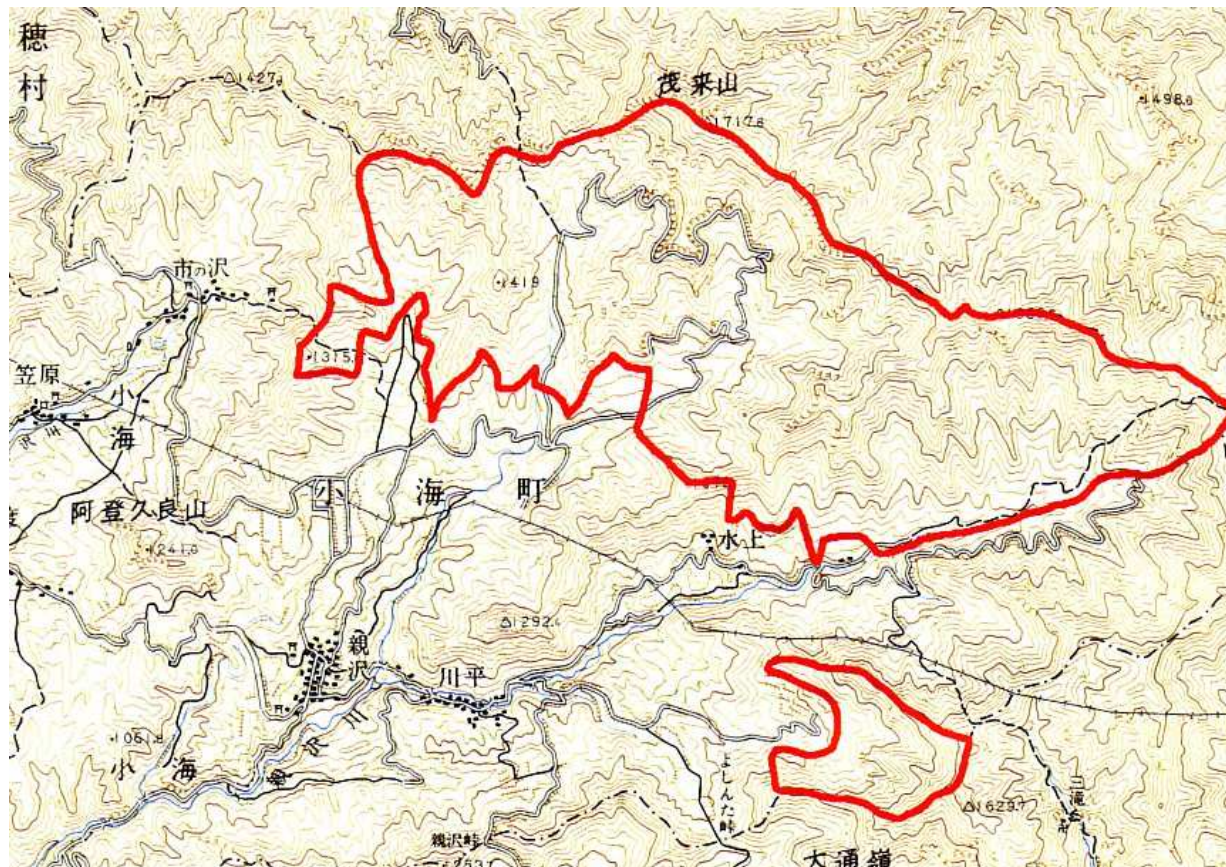


# 小海県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図（十石峠）を使用したものである。

## <沿革>

小海県有林は、小海町の北側茂来山の南斜面に広がる団地と馬場山と呼ばれる団地の2箇所からなる県有林で、標高1,200mから1,700mに位置しています。森林面積は約760haと、本郷県有林に次ぐ県下で2番目に大きい県有林です。

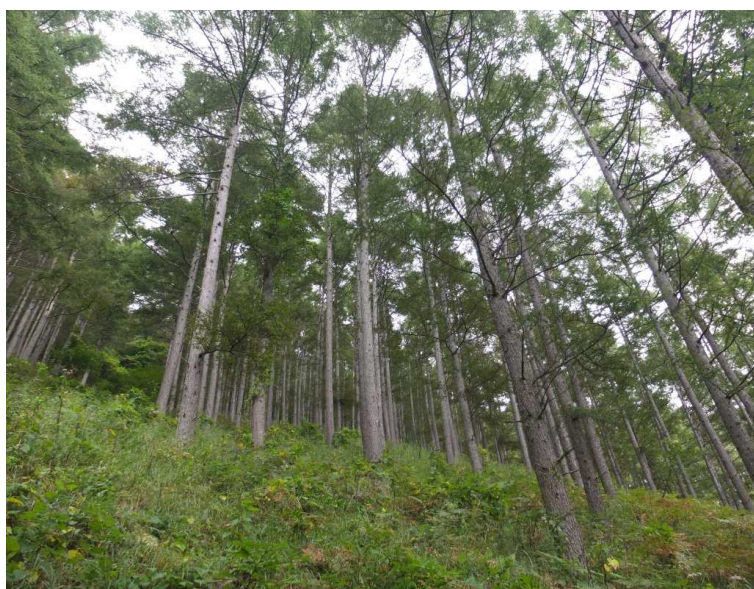
明治39年3月31日、本県で3番目に創設された県有林で、地元の親沢・川平地区の人々による小海県有林保護管理組合との密な協力関係の下に、囑託林、直営林、部分林のほか、昭和50年に制定の特殊施業林など様々な形態をとりながら管理されてきています。

## <現況・特色>

素性のよいカラマツが育ち、林道茂来線沿線には、昭和元年植栽の97年生のカラマツ大径木60本が残され普通母樹林に指定されています。

また、当県有林のアカマツ林内ではマツタケが発生するため、採取権の販売を行っています。

さらに、間伐によって吸収された二酸化炭素量を、環境省のJ-クレジット制度によりクレジット化し、環境貢献に取り組む県内外の企業等へ広く販売するなど、多面的な活動を展開しています。



### <森林整備の方向>

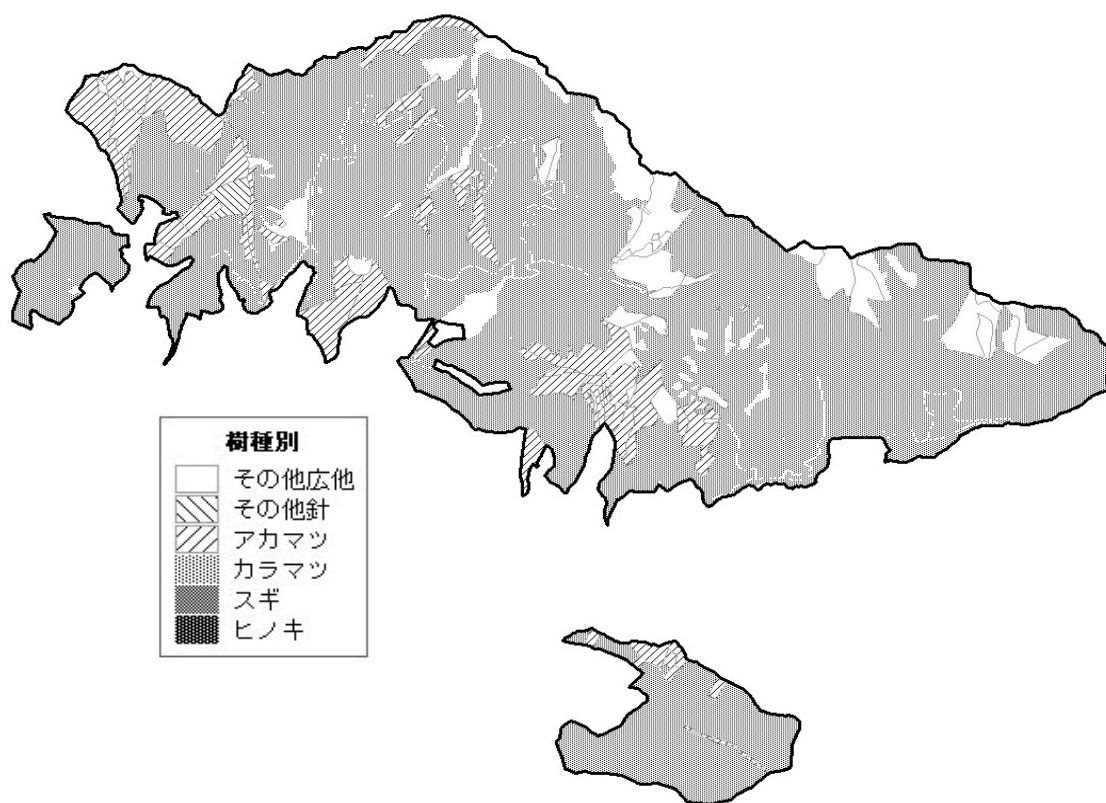
当県有林は林道が整備されているため、傾斜が比較的緩やかで伐期を迎える林分においては、効率的木材生産型施業を行い、主伐・再造林の一貫した施業を検討します。また、高齢級のカラマツはプレミアムカラマツとして付加価値の創出も検討します。

傾斜が25度～35度で、路網から200m以内のカラマツ林では、帯状伐採や小面積分散型施業を実施します。林道等の路網から離れ、傾斜が急な林分では、針広混交林化を目指し、天然更新を促進します。

### <樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・ナワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
757.59		91.23		554.78	4.24	32.05	75.29
100%		12%		73%	1%	4%	10%



### <齢級別資源構成>

